

今も残る戦争被害 ～旧日本軍による遺棄毒ガス被害事件～

2018年8月11日

弁護士 富永由紀子

1 毒ガス兵器はなぜ中国に遺棄されたのか

□旧日本軍による毒ガス兵器の製造

- ・ジュネーブ議定書（1925年）＝ 毒ガス兵器の使用を禁止
- ・旧日本軍は1929年から製造開始・・・ 毒ガス兵器は「貧者の核兵器」
- ・地図から消された島・・・ 広島県大久野島の忠海兵器製造所

□旧日本軍による毒ガス兵器の配備

「きい剤」＝びらん剤（イペリット・ルイサイト）

「あか剤」＝嘔吐剤（ジフェニルシアノアルシン ヒ素）

「あお剤」＝窒息剤（ホスゲン）

「ちゃ剤」＝血液剤（青酸）

・・・生産した量の合計7376トン

海外への配備量 化学兵器248万発・化学剤129トン

このうちの大部分が中国への配備に

□旧日本軍による毒ガス兵器の使用

- ・黒竜江省チチハルの通称516部隊・526部隊と陸軍習志野学校
- ・実戦での使用

□中国における毒ガス兵器の遺棄

- ・第二次世界大戦を通じて戦場で毒ガスを使用したのは日本のみ
 - ⇒ 国際法違反を問われるのを恐れ組織的な遺棄
 - 資料についても焼却の指示
 - ⇒ 毒ガス遺棄の経緯は闇の中に

2 遺棄毒ガスによる被害の多発と戦後の国の無策

□日本国内にも眠る毒ガス兵器

相次ぐ事故の発生

1945年～ 浜名湖、千葉県銚子沖、別府湾、広島県大久野島など

2002年 神奈川県寒川

2003年 茨城県神栖

□政府によるフォローアップ調査（２００３年）

A 事案＝毒ガス弾等の存在に関する情報の確実性が高く、かつ、地域も特定

千葉県習志野市／神奈川県寒川町／神奈川県平塚市／茨城県神栖市

B 事案＝毒ガス弾等の存在に関する情報の確実性が高いものの、地域が特定されていない

静岡県浜松市／北海道千歳市・・・等

C 事案＝地域は特定されているものの、毒ガス弾等の存在に関する情報の確実性は不十分

埼玉県さいたま市（第六陸軍技術研究所与野研究室）・・・等

D 事案＝上記以外の事案

□中国国内における事故の多発と戦後の日本国の無策

・中国国内では終戦直後から事故が多発

・中国側からの強い要請・・・１９９１年になってやっと調査開始

・化学兵器禁止条約発効（１９９７年）、日中覚書締結（１９９９年）

遺棄化学兵器処理事業がスタート

・・・しかし、中国側が発見したものの確認のみ。

３ 遺棄毒ガスによる被害とは

□遺棄毒ガス兵器による被害はどのように拡大するか

２００３年８月４日 チチハル遺棄毒ガス被害事件を例に

□遺棄毒ガス被害の実態

・急性被害

・多岐にわたる後遺症・・・肺・呼吸器、皮膚、目、神経症状など

生涯続く症状と癌発症の恐怖

生活すべての破壊

４ 被害者らによる提訴と国側の主張

□なぜ被害者たちは提訴したか・・・医療支援・生活支援の政策形成を求めて

□提訴後も相次ぐ被害

１９９６年 遺棄毒ガス被害事件第一次訴訟

１９９７年 遺棄毒ガス被害事件第二次訴訟

2007年 チチハル遺棄毒ガス被害（2003年発生）訴訟
2008年 敦化遺棄毒ガス被害（2004年発生）訴訟

☐ 裁判での国側の主張

「旧日本軍の化学兵器ではない」「中国やソ連に引き渡した」

「中国は請求権を放棄した」「仮に国が調査しても、本件毒ガスの遺棄場所を
特定することは困難だから、責任はない」

☐ 国の主張を追認した司法の不当性

5 市民の力で被害者の救済を～遺棄毒ガス兵器被害者救済のための基金設立へ

☐ 日本の市民による寄付、日本の医師らのボランティアによる検診活動

☐ 検診活動を通じて築かれた日中両市民による共同の輪

☐ 2015年 化学兵器日中未来平和基金の設立

2016年 日本側の基金受皿としてNPO法人設立

今後の基金としての取り組み

- ・医療支援 ＝検診活動から積極的な治療活動へ
- ・精神的支援＝日中両市民と毒ガス被害者たちとの交流
- ・生活支援

6 遺棄毒ガス被害事件に関わって考えたこと

☐ 戦後世代としての責任とは

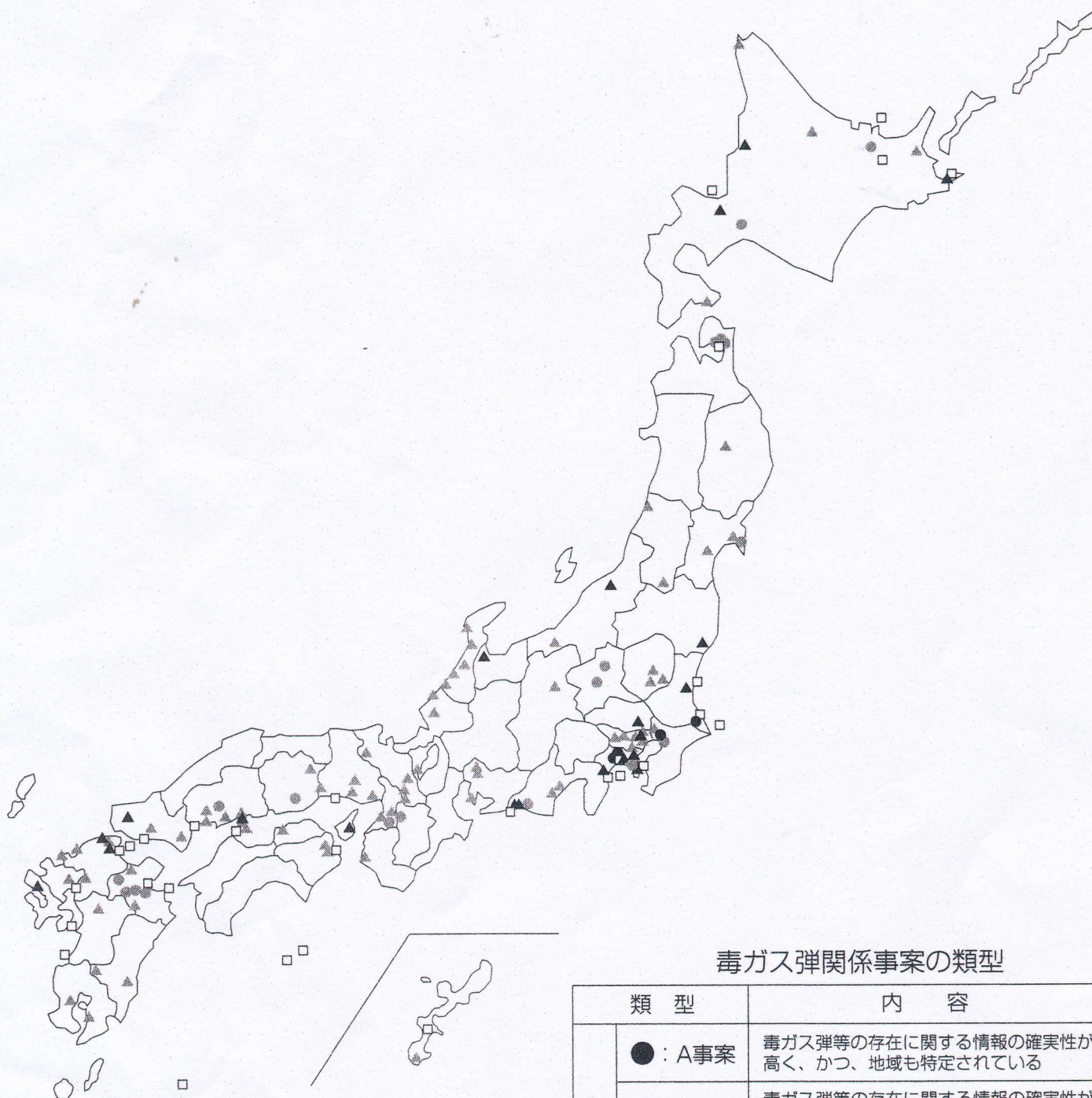
☐ 遺棄毒ガス被害者支援を通じて生まれつつある日中の市民の連帯

- ・真の意味での安全保障



- : 発掘・回収済み (外務省調査を含む)
- ▲ : 今後予定されている発掘・回収事業 (外務省調査を含む)

旧日本軍の毒ガス弾等に係る情報の全国分布



資料：環境省

毒ガス弾関係事案の類型

類 型		内 容
陸 上	●：A事案	毒ガス弾等の存在に関する情報の確実性が高く、かつ、地域も特定されている
	●：B事案	毒ガス弾等の存在に関する情報の確実性が高いものの、地域が特定されていない
	▲：C事案	地域は特定されているものの、毒ガス弾等の存在に関する情報の確実性は不十分である
	▲：D事案	前記以外の事案
□：水域		海洋、河川、湖沼に関する事案

03年8月4日、中国黒龍江省チチハル市内の団地の地下駐車場建設現場から5つのドラム缶が掘り出された。このドラム缶には、旧日本軍が第2次世界大
密裏に製造した、イペリット及びルイサイトと呼ばれる毒ガス液が詰められており、また、ドラム缶から漏れたイペリット液が周辺の土を真っ黒に汚染して
し、掘り出された時点でそのような危険な液体とは認識されず、ドラム缶と中に残る液体、汚染された土を媒介に被害が拡大してしまった。

判明した被害者 44 名（うち 1 人死亡）
主要な現場は 8 箇所へのぼる

北疆花園団地 / 地下駐車場建設現場



(2004.8 撮影)

事故
発生

15 人

ドラム缶の撤去作業
汚染土の上で作業

イペリット入りドラム缶
5 個

ペリットにより
染された土

2

鉄南廃品収集購買店（廃品回収所）

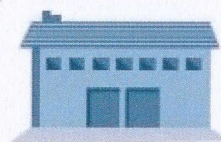


10 人

ドラム缶の解体作業
ドラム缶の液体除去でうち 1 人死亡

3

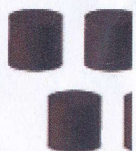
化学工場



1 人

ドラム缶に接

ドラム缶は、
最終的に無害化処理のため、
化学工場に運び込まれた。



甘南民族車隊（第 1 現場そば駐車場）



(2004.8 撮影)

5 人

汚染土で整地作業

5

一般個人宅 A



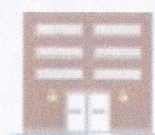
(2004.8 撮影)

8 人

汚染土で整地作業
汚染土の山で遊ぶ

6

中学校校庭



2 人

整地のため運び込ま
れた汚染土の山で遊ぶ

7

一般個人宅 B、道端

8

3 人

汚染土で整地作業
汚染土に接触

※厳密には、上記 8 箇所のほかに 3
の事故現場が確認されている。